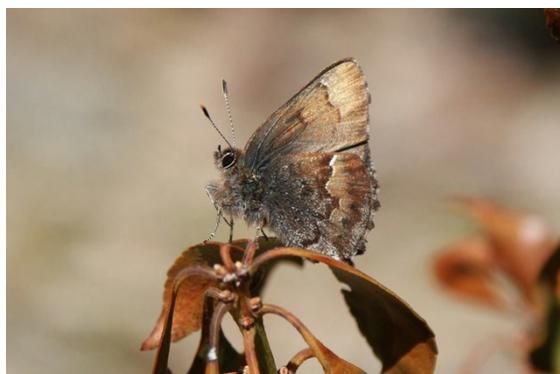


コツバメの産卵

天城山の皮子平へ早春に行くと春の女神に会える。女神とはコツバメのことであるが、人の気配がないし騒音(コツバメに音は聞こえない)もないところで見るとからだろうか？麓にいるものとは気品さが違うようである。

写真のコツバメは新芽が枯れてしまったアセビの上ですまし顔をしていてカメラを近づけても一向に怖じた様子もみせなかった。皮子平は鹿さんの食べないアセビが大量に育っているので幼虫の食草が豊富な場所である。



今年の4月17日、まだ蕾が固い庭のドウダンツツジの周りをコツバメが忙しそうに飛び回っている。なかなか離れないので「いい写真が??…」とカメラを持ち出して追い掛け回した。まだ蜜が出そうもない蕾の周りを必死?に動き回っている。ファインダーで覗くとどうも産卵の最中のようなのである。コツバメが飛び去ってから産卵現場らしい枝を掻き分けて調べたが、どの枝だったのかさえ記憶が乏しいのでとうとう卵は発見できなかった。目印を覚えておけばよかった。



その後、4月26日の朝である。今度は咲き始めた天城しゃくなげの花にコツバメが来ていて、見ればこれも産卵作業のようである。そして忙しそうに場所を変えては産卵作業を繰り返し、なかなか飛び立とうとはしなかった。

「そうだ！ドウダンツツジよりしゃくなげの方が何十倍も大きいから幼虫の食料はこれで安泰だ」とこの時、思った。



いなくなってから(まだコツバメが後ろから見ていないだろうかなどと気にしながら)しゃくなげの花を捜した。今度は花弁が大きくシンプルなのでドウダンツツジのときと違って捜しやすかった。小さな

(それでもコツバメの体型にしては大きい)1mm弱の卵が5ヶ見つかったのである。
何枚撮っても同じで、写真の解像度が悪くて鮮明でないように見える。最初は分からなかったが卵の周りを薄いフィルム状の膜が覆っているようで、これが解像度の上がらない原因であったようだ。
その後、まだ卵が孵らないかと毎日覗くこと1週間あまりして、困ったことに卵が花卉に着いたままのにしゃくなげの花は散り始めたのだ。卵はどうなってしまうのだろう。
その後、諦めもせず落ちた石楠花の花や花の着いていた付近などを調べるのだが、卵はおろか(小さいから無理もある)幼虫の姿は発見できなかった。コツバメが選んだしゃくなげの花は mismatch だったろうか?ドウダンツツジは依然と満開であるがこちらも這っている幼虫が見つからない。
無事に育ったことを望んでいるが山奥のアセビの方が良かったのだろうか?



写真は花が散り始めた5月8日の天城しゃくなげとまだ満開の同日のドウダンツツジ